川柳

赤堀晶子

（六会川柳会）

ショッピング思い切りした夢の中
誘い合い旅行が出来る時が花
動脈と同じか脳も硬くなり
心地良く登り切る夢八十路坂
種々多様マスク買い溜め売れる程

浅井栄

（辻堂川柳会）

孫からの便りＬＩＮＥで写真付き
おままごとママの真似っこパパにやり
しみじみと杯傾ける友は無く
ゆっくりと過ごす老後にコロナ弾
新聞の見出しハス読みしかめっ面

雨宮則子

（湘南台川柳会）

見るからに誠実そうな受子来る
答弁の前置きいつも長過ぎる
ヘアカラー分け目に白が迫りくる
おだてると話止まらぬお義母さん
コマーシャル輝度音量が高くなる

石川正明

（湘南台川柳会）

帰郷して母の薫りの居間にいる
父と酒退職祝うウイスキー
顔洗い出直す姿勢磨かれる
下馬評をひっくり返す金メダル
付け焼刃テレビ授業でもがく僕

市川嘉紀

（鵠沼川柳同好会）

ひとり旅宿定まらぬ星降る夜
秋風に日々を任せて草枕
空財布ロマン求めた旅終る
教会の鐘の音響く小京都
悔恨をリュックに詰めて続く旅

井上朗

（六会川柳会）

意気高く夢を求めて生きて来た
いたずらもいじめになれば嫌われる
お風呂場をのぞくピンクのさるすべり
出て来るはあれそれこれの言葉だけ
頑張れば花を咲かせる時が来る

井上朗

（川柳こぶしの会）

たった五人の幸せなクラス会
マスク越し積る話が籠り勝ち
抽斗が多くてアレが出て来ない
ウクライナの惨状思う終戦忌
数滴のトニック今日のエピローグ

岡本昌代

（湘南台川柳会）

散歩道日に日に消える顔なじみ
もういいかい紅いルージュはお待ちかね
会釈して井戸端会議そっと避け
水枕ゴムのにおいと母の愛
遠ざかる記憶へ杭を打ってみる

小澤敏夫

（なぎさ川柳会）

我が町が住みよい町になる誇り
苦節越え愚痴すら言わぬ母だった
とりあえず聞く耳を持つ生き上手
マスク越し人柄覗く柔和な目
寝たきりに成らず脳トレ日々励む

小野敬子

（六会川柳会）

裏着てる言われ思わず照れ笑い
万札をかがせ散歩に連れて出る
入れ歯かなまぶしい笑顔見て思う
山海の珍味を腹に露天風呂
レジにきてちゃっかり払わせる娘

川端史郎

（鵠沼川柳同好会）

居残りの冬引き摺って春が来た
お洒落着の女の裾に虫かざる
春めいて一花咲かせたい気分
母の背で聞いた演歌が子守歌
トランクに昔をつめて友来たる

今日一

（川柳こぶしの会）

ブレーキをAI俺の前に踏む
くじは駄目嫌な役だけ良く当たり
帰宅して服もマナーも脱ぎ捨てる
情報は昔井戸端今スマホ
特売日タクシー呼んで買いに行く

熊田松雄

（湘南台川柳会）

口げんか負けた亭主の黙秘権
土俵より目がいく和服美人客
どちらにも正義があってもつれ出す
訃報知り鍋も煮つまる同期会
イントロですでに名画が蘇る

ケイ

賑やかに桜愛でたいこの春は
変わりゆく世相反映流行語
孫相手遊びのはずがついむきに
小利口な詐欺の手口も日々進化
結末が気になり途中とばし読み

斎藤融

（辻堂川柳会）

気難しいおやじではやるうまい店
徘徊と間違いられる老い散歩
自家菜園不揃いながらお裾分け
晩酌に付き合う妻が俺を越え
混浴に湯気で気になる人の影

坂本万里

（六会川柳会）

携帯のトリセツ孫に教え乞う
いつからかリュックと赤子前に負う
ウクライナ戦火の下で待つ平和
暑い日は冷たいビール一気飲み
富士山にダイヤモンドの陽が沈む

島津富弥

（湘南台川柳会）

九条を変えて靖国近くする
職人の手が生み出した無限大
色即是空まだ解らない道にいる
ゆっくりと爪先が舞う能舞台
尼寺のノートに業の不発弾

島村青窓

（湘南台川柳会）

円安にサイフの紐をぎゅっと締め
九枚目も戦禍が続くカレンダー
包まれて勇気をもらう友の情
秋の山パッチワークを買いに行く
やりとげた笑顔咲いてる展示場

下田わこ

（湘南台川柳会）

映画にてアメリカ知るや若き頃
朝露に取りしキャベツに虫の顔
からみ合う糸口さがす脳パズル
会話富み箸が行き交う鍋の底
夕やみの明かりともされ待つ家族

尚風

百までも動く覚悟で生きるべし
当りだと信じ結婚今がある
節電に居間集合と号令す
便利なのサイバー防御にかける手間
値上げされ家計やりくり泣く財布

菅沼雅彦

人災を災害と呼ぶ人だあれ
クーポンの配布日でばれる年令が
五輪前名売るレースで金(カネ)メダル
今回も年のせいだと医師はいう
十円に託す願いははかれない

竹田圭子

（湘南台川柳会）

物忘れ笑い話じゃもう済まぬ
鏡台に腰を伸ばせと叱られる
うっかりが神出鬼没老いを知る
今日生きた分だけゴミの始末する
ロボットが仕事よこどる近未来

妹尾安子

（六会川柳会・鵠沼川柳同好会）

蹴り飛ばすつもりの石に蹴つまづき
退屈をする暇のない好奇心
次々の天変地異に泣く地球
土産より背中を掻いて欲しい婆
野仏の湯のみ骨董品に見え

竹花敏夫

（湘南台川柳会）

泥酔に迷いもせずに着く我が家
星影のワルツ唄ってまた会おう
年毎に無くなっていく羞恥心
麻雀が二号で妻は呆れ果て
過疎地から地酒振る舞う町おこし

田中邦彦

眼鏡越し何か言いたげ妻の顔
知ってても知らぬ顔する利口者
辞令受け地図で探した赴任先
大トロに手を伸ばしかけ目は値札
テレワーク気付きあわてて途中下車

ちか

（湘南台川柳会）

いつまでも権威離さぬ老議員
金出さず賞を喜び情け無い
趣味減らし物価高騰遣り過ごす
混雑を避けて土日は家に居る
見回して今日も小さな幸見つけ

塚本有子

（湘南台川柳会）

夏休み子等の声なく蝉は鳴き
朝顔を二輪のこして秋迎う
母親のおしめの始末恩返し
メールでは聞けない母の国言葉
貧も富もたどりつく場所みなおなじ

戸澤千鶴

（湘南台川柳会）

父母面談賢母よそおい肩が凝る
割れ鍋にまだ蓋はなくワンルーム
子に全て賭けて清貧老いの日々
入浴の夫のスマホを見る鼓動
寡婦となる友また増えて年暮れる

中澤　英風

花びらに書けぬが託す花ことば
近頃は何かと妻の手を借りる
下手な句も色紙（しきし）に書けば巧く見え
何くそと力めばギリリ鳴る奥歯
栗ごはん胃の腑に嬉し秋の味

長嶋　富士子

（湘南台川柳会）

我が椅子に陣取る犬の背を撫でる
親孝行せよとしみじみ孫に言う
老婆心煩わしくて無視をする
季節ごと主治医に会うを楽しみに
人生の最後の恋はほのぼのと

長屋　比佐子

（湘南台川柳会）

わたくしの最高遺産息子達
砲弾下担架を担ぐ妊婦乗せ
身に纏う日本文化の茶道所作
仲良しの糸口笑顔誉め言葉
自粛明け孫との出会い待ち焦がれ

萩原　萩

（川柳こぶしの会）

四回目打ってひとまず胸を張る
格別の進化ご無用コロナ様
十八で急に大人と言われても
パスワード忘れて遠いデジタル化
納税が馬鹿らしくなる使い方

はじめ

（鵠沼川柳同好会）

国葬日赤木さんにも手を合わす
黙らない勇者称える平和賞
老い進む丸くなる角尖る角
高齢の迷子知らせるスピーカー
思い出の写真に声も撮れている

幡多　純

（湘南台川柳会）

天国に近づきたくてスカイツリー
窓際の席を夫にフルムーン
終のすみか医者店駅の三拍子
捨てるもの捨ててスキップ終の家
朝一番窓全開に深く息

早田　登

むかしむかしせんそうがありましたとさ
庁が省憲法改訂隊が軍
抑止力ひょんなはずみで木阿弥に
緊急にロックダウンで戒厳令
尻馬にのって戦場かけめぐる

深野　いく生

（なぎさ川柳会）

寝たきりは怖い足元見て歩く
人前で転び怪我より恥かしい
他人より先と特売急ぎ足
父の死に泣かぬ認知の母を抱く
あの世への土産は孫や子の話

船越　しのぶ

（湘南台川柳会）

歳の差が会話にならずフーンだけ
目の前の見えて見えない探し物
興がのるままに本読み白む窓
増える赤一喜一憂コロナ地図
切らずしてもつれた糸をほぐす母

古木　光江

（鵠沼川柳同好会）

断捨離で判断迷う保留品
いたずらに天の打ち水多すぎる
いっぱしのプロ歌手気分風呂の中
ジャンケンに負けて役員引き受ける
口げんか売った買ったを犬が食べ

松江　文

（湘南台川柳会）

反抗期素直に美味いと母の味
年越しの蕎麦打つ義母の懐かしい
鍵忘れ窓越し呼べば子はゲーム
黙食で裁きができぬ鍋奉行
久しぶり並んだ枕家族旅

前田　みゆき

（六会川柳会）

笑いジワ気にして笑顔二割減
嫌味さえ笑い飛ばせる歳になる
英国に国葬とはを披露され
旅割でお得な秋の紅葉狩り
日常に旅のかけらが顔を出す

水城茂子

（六会川柳会）

限りなく無事太平な世を願う
涙でかすむテレビ映像ウクライナ
もっともっとと記録大谷無限大
来世も君をえらぶとそっと言い
小春日に夫に会いに花手桶

村田和彦

（湘南台川柳会）

どんどんと本音引き出す聞き上手
気もそぞろ息子の合否発表日
帰り道負けて背負ったランドセル
父の歳こえてしみじみ一人酒
ロボよりも掃除が上手うちのパパ

村田憲治

仏壇に供えた菓子に孫の手が
年の瀬に人の足並みせわしなく
悔い残る負けたくないよあいつには
定年後妻に教わる家事炊事
エコとエゴ似ている様で大違い

森　コンペ

（湘南台川柳会）

孫と観るアニメ映画に欠伸でる
揉みくちゃの熱気むんむんラッシュどき
スケボーの若さみなぎる宙を舞う
一輪のコサージュ生きる晴れ舞台
女子会のブレーキ効かぬ自己主張

守田　貴美子

（六会川柳会）

私みたい夕焼けなのに雨が降る
妻病んで夫の家事が上手くなる
あぶないと言われた事がしてみたい
泣く母がウクライナにもロシアにも
マスク時代人の狂気も隠される

柳澤　いそ江

（鵠沼川柳同好会）

趣味三昧老いに熟（こな）れた節回し
惚け振りにオレオレが言うお大事に
重役の汚職社運が軋（きし）み出し
能の無い上役切れる部下を待ち
尋ねたい言葉を舌の裏で止め

八幡　禮風

（川柳こぶしの会）

正直に生きても狂う羅針盤
老化する脳にことばの種を蒔く
明日の風僕の出番はきっとある
よいしょなら誰にも負けぬ母である
にこやかに生きて心は真ん丸い

やまぐち　珠美

（湘南台川柳会）

足裏の汚れを拭わない案山子
ふるさとと呼びたい穂波また穂波
深くなる夜に梨の実と同じ月
遺された句集の整理夜半の雨
旧い虹ココアをぬるくあたためる

吉田節子

（六会川柳会）

もったいない捨てる古着を母拾う
ミサイルの墓場と化した日本海
神様もわからぬ明日を信じてる
スラックスウエストいつかゴムになる
電車席若者だって疲れてる

吉野健司

（湘南台川柳会）

買ったらと言わんばかりの修理代
マスクなどしちゃ泳げぬと鯉のぼり
建て付けの悪く換気のいい我が家
ダメ元という程のいい欲加減
頑張るのやめたらなんだ頑張れた

米山かず

（川柳こぶしの会）

胸張って主役のつもり散歩道
散歩道夜には夜の顔がある
散歩道何時もの犬と出会わない
散歩道暑さ寒さで変る向き
朝日浴び影が伸びてく散歩道

渡辺次郎

（湘南台川柳会）

めぐり逢い不思議な縁で今がある
会いたいね今年も書いた年賀状
鍋奉行また自慢げにひとくさり
目がさめてマクラの上に足二本
ハイハイと手をあげ園児指名待つ

第三十五回 ふじさわ川柳大会記録

日　時　二〇二二年　九月二十五日(日)
主　催　ふじさわ川柳大会実行委員会
共　催　(公財)藤沢市みらい創造財団芸術文化事業課
後　援　藤沢市教育委員会
会　場　藤沢市民会館　第一展示集会ホール
参加者数　六十八名

宿　題　「歌う」　青木　薫　選
「いたずら」　菊地　良雄　選
「のんびり」　八木せいじ　選
「訪れる」　岩崎　能楽　選

特別課題　「クール」　熊田　松雄　選

表　彰　市長賞　宿題の天の句　四句

宿題　「歌う」　青木　薫　選

五　客

思いきりマスクをはずし歌いたい　マリ
寝たきりの父に残っている軍歌　いく生
お山の杉の子たった一つの母の歌　幸子
負けるなと俺を鼓舞する歌に惚れ　卓郎
下積みの男を泣かす唄がある　富夫

三　才

人

星影のワルツで送る新天地　稔

地

育児休暇パパも歌った子守歌　壱郎

天（市長賞）

敵兵も抱かれただろう子守歌　団石

軸

イマジンを今こそ歌う高らかに

宿題「いたずら」　菊地　良雄　選

五　客

障子の穴に少年の好奇心　かつ子
いたずらの跡確かめに行くフルムーン　富　弥
戯れのアイラブユーに縛られる　洋　子
キューピッドに化けたあなたの矢が当たり　新　平
矢印が天に向いてる登山道　政　勝

三　才

人

肝心なところで月が顔を出す　薫

地

僕の歌声が流れる僕の通夜　芳　夫

天（市長賞）

バス停を毎日少しずつずらす　閑　礫

軸

台所に危篤の筈の母がいる

宿題「のんびり」　八木せいじ　選

五　客

緩やかに時が流れるハンモック　象　堂
雨上り何処へ行こうかカタツムリ　光　江
のんびりと出来ぬ世界の核ボタン　岳
断捨離の決断つかず日は暮れる　近　下
九条を盾にぬくぬく平和ぼけ　松　雄

三　才

人

子は大器晩成までを焦るまい　了　三

地

勝てる日を信じて待った亀の足　美津子

天（市長賞）

樽に寝てモルト目覚めの時を待つ　武　彦

軸

喧騒を逃れ鄙びた旅の宿

宿題「訪れる」　岩崎　能楽　選

五　客

集金に玄関先の花をほめ　富　夫
孫達の世に訪れる四季憂え　一　樹
戸をたたく老いに居留守を使ってる　青　窓
訪れて連れ戻したい拉致家族　いそ江
味しめてまたバッハ氏がいらっしゃる　秀　夫

三　才

人

幸せが訪れますと買わされる　貴美子

地

一人居は訪れる人待ち侘びる　マ　リ

天（市長賞）

遠来の客だ洋カン厚く切る　融

軸

訪れる人へ和みのおもてなし

特別課題「クール」　熊田　松雄　選

五　客

小遣いを渡すとすぐに帰る孫　いそ江
責められる議員仲間の知らん顔　雅　子
挑発へ平常心は動じない　薫
淡々とがんの診断下す医師　はじめ
生きようと漸く治療ワンクール　ミツエ

三　才

人

俺の分気になる妻のクール便　卓　郎

地

クールさに棘も加わる倦怠期　敏　郎

天

平静に指示する医者のトリアージ　ゆかり

軸

引き際の美学にみせるダンディズム